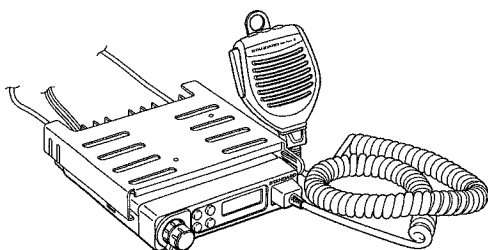


GX5560 シリーズ

無線電話装置
取扱説明書

警告

- 水につけたり、雨に濡らさないでください。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コネクタを抜いてください。また、屋外にアンテナが設置されているときは、アンテナコネクタをはずしてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 送信中にアンテナに触れないでください。やけど・けがの原因となります。
- 機器で指定されていないヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を数物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

注意

- お手入れの際は安全のため電源コネクタを抜くか電池を外して行ってください。
- 移動させる場合は、電源コネクタを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コネクタを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- 自動車などの運転中はこの機器を操作しないでください。安全運転の妨げになることがあります。
- 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けがの原因となることがあります。

ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 濡れた手で電池や電源コネクタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 当社指定の電源ケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、煙が出ている、変なおいや音があるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険です。絶対におやめください。
- 万一、機器の内部に水が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

業務用無線電話装置 GX5560 シリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。お買い上げいただきました製品に、万が一不審な点、お気付きの点がありましたら、なるべく早くお早めにお買い上げいただきました販売店あるいは(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターへお申し付けください。

お使いになる前に、この取扱説明書を最後までお読みのうえ、正しくお使い下さい。

目次

1. 機器の概要	2
2. 機器の構成	4
3. 各部の名称と動作説明	5
前面	5
表示部	6
後面	6
簡易マイクアンドスピーカ (CMP5560)	7
多機能マイクアンドスピーカ (CMP888)	8
4. 基本操作方法	10
起動と待受及び受信	10
送信	12
閉局	12
通話方法の例	13
5. 応用操作	14
スキャン機能 (GX5560VFT/UFT)	14
ロック機能	14
マイク感度切り替え機能	14
エマージェンシー機能	14
オートスケルチ/マニュアルスケルチ切り替え機能	15
個別通話機能への切り替え	15
個別通話機能	16
不在着信メモリー機能	16
セレクトオールモニター機能	17
ページング機能	17
ダイレクトページングコード機能	17
ページング着信表示機能	18
ラストページングコード呼び出し機能	18
局内ページングコード表示機能	18
6. ご使用上の注意	19
7. 取り付け場所と取り付け方法	20
取り付け方法	20
8. 機器の保守方法	21
日常の保守点検	21
9. 故障とお考えになる前に	22
10. 定格	23

1. 機器の概要

GX5560 シリーズは小形、軽量で取り扱いの容易さを主眼に開発された業務用無線電話装置です。次のような特徴を持っています。各機能のご利用については販売店での設定が必要となるものがあります。

■信頼性重視

デジタル技術を活用して機械的な調整箇所を少なくしました。主要回路を IC 化し、各チップ部品は高度な表面実装技術により、4 層スルーホール・ガラスエポキシ・プリント基板上に配置しました。筐体はダイカストを使用し、より信頼性を向上させました。

■連続トーンスケルチ (CTCSS) ・デジタルコードスケルチ (DCS) 内蔵

他局の通信をシャットアウトする機能です。スケルチを動作させると、自局と同じトーン周波数や DCS コードの局の通信だけを聞くことができます。

ご注意：連続トーンスケルチ機能またはデジタルコードスケルチを使用する場合は、免許申請時にその利用を申請することにより、免許状にその周波数 (トーン周波数) や DCS コードが指定されます。

■デジタルスケルチ機能内蔵 (GX5560VCAT/UCAT のみ)

デジタルスケルチを動作させますと、同一ユーザー間での通信だけを聞くことができます。

ご注意：デジタルスケルチを使用すると通話距離が短くなる場合があります。

■ページング機能 / エマージェンシー機能内蔵

ページングコードを指定して、特定の局を呼び出すことができます。この機能には、アンサーバック機能があります。したがって、相手局に確実に伝達されたことが分かります。また、緊急の際には、グループ内でエマージェンシーコードを送受信できます。

ご注意：電波が混信している場合は、正しく呼び出せないことがあります。

■個別通話機能

相手先のコードを指定して、特定の局を呼び出すことができます。個別通話には、個別呼出の他に、グループ呼出、一斉呼出があります。詳しくは販売店または (株) スタンダードの営業所またはサービスセンターにお問い合わせください。

■使用環境に応じた音質設定が可能

車載使用・事務所使用等異なった環境での運用に対応するために 4 段階の音質変更が可能です。またマイク感度も 3 段階変更することが可能です。

2

■不在着信機能

無線機から離れていても、不在着信機能により呼び出しがあったことと、呼び出された相手局を知ることができます。

■セレコールオールモニター機能

個別通話を行っている局どうしの会話をセレコールオールモニター機能を使ってモニターすることができます。

詳しくは販売店または (株) スタンダードの営業所またはサービスセンターにお問い合わせください。

3

2. 機器の構成

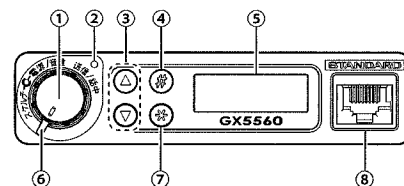
品 名	数量	形 式	備 考
無線機本体	1	GX5560UCAT	契約の際のご指定により各機能の追加可能
		GX5560VCAT	
		GX5560UFT	
		GX5560VFT	
マイクアンドスピーカー	1	CMP5560	
本体取付金具	1		
電源ケーブル	1		長さ約 3m
マイクハンガー	1		
マイクハンガー取り付けビス	2		
予備ヒューズ	2		定格 5A
取扱説明書	1		本書です
保証書	1		
営業所一覧	1		
空中線	1		契約の際のご指定による一種類
多機能マイクアンドスピーカー	1	CMP888	契約の際のご指定による
基地局用電源	1	BS24	契約の際のご指定による
スタンドマイク	1	CSM5560	契約の際のご指定による
GPS モデム装置	1	CDS200	契約の際のご指定による

■多機能マイクアンドスピーカー (CMP888 : 別売)

GX5560 シリーズ用として、ダイレクトに個別呼出しコードまたはページングコードが入力できたり、手元でチャンネル番号が変更できる多機能なマイクを用意しました。

3. 各部の名称と動作説明

前面



- ① 電源スイッチ及び音量調節ツマミ
 - 押す毎に電源の入/切を繰り返します。
 - また、右に回すと音が大きくなり、左に回すと音が小さくなります。
- ② 送信 / 話中表示
 - 送信状態になった時、赤色に点灯します。
 - 他局が通信中の時、あるいはスケルチツマミの調整がされていない時、緑色に点灯します。
- ③ チャンネルアップ・ダウンボタン
 - 複数チャンネル設定時に、このボタンを押すと、チャンネルが変更されます。
- ④ # ボタン
 - このボタンを押しながら、電源を入れると、マニュアルスケルチとオートスケルチの切り替えを行います。
- ⑤ 表示部
 - 詳細は、次ページをご覧ください。

- ⑥ スケルチツマミ (マニュアルスケルチ設定時のみ有効)
 - 電波の状態により、明瞭に通信できるように調整します。スケルチの調整は、信号を受けていない際に行ってください。このツマミを左に回しきった位置から徐々に、右に回していき、話中表示が消えた位置で止めてください。
- ⑦ * ボタン
 - このボタンを押しながら、電源を入れると、マイク感度の設定が行えます。
- ⑧ マイクコネクター
 - マイクを接続します。

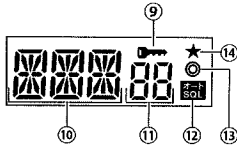
アドバイス

- 個別通話機能を設定していると、ボタンにより操作が違っているものがあります。詳しくは、「個別通話機能」(15 ページ)をごらんください。

4

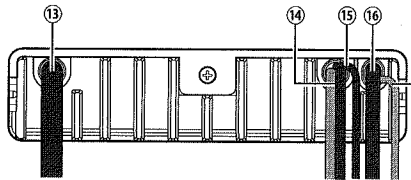
5

表示部



- ⑨ ロック表示
● 本体及びマイクのボタンがロック状態のときに表示されます。
● ロックの設定/解除は、簡易マイクまたは多機能マイクのモニターボタンを押しながら、電源を入れることで切り替えが行えます。
- ⑩ モード表示Ⅰ
● チャンネルが表示されます。
- ⑪ モード表示Ⅱ
● モード表示Ⅰにチャンネルが表示されているときに、「CH」が表示されます。
- ⑫ オートスケルチ表示
● 無線機のスケルチ設定を、オート設定にしたときに表示されます。
- ⑬ セレコールオールモニター機能が設定されているときに表示されます。
- ⑭ 個別通話機能が設定されているときに表示されます。

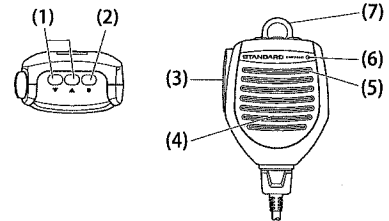
後面



- ⑬ 空中線(アンテナ)接続
● M型コネクタの空中線(アンテナ)を接続します。
- ⑭ 電源ケーブル
● DC 12V 系または 24V 系の電源と接続します。
これ以外の電源には絶対に接続しないでください。
- ⑮ 接地用ケーブル
- ⑯ 外部スピーカー用ケーブル
● 外部スピーカーを接続します。
(φ 3.5 ジャック使用)
外部スピーカーは、8 Ω以上のものをお使いください。
- ⑰ エマージェンシー (EMG) 用ケーブル
● エマージェンシー用スイッチを接続します。スイッチの接続に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

6

簡易マイクアンドスピーカー (CMP5560)
(本文中、簡易マイクと表記)



- (1) 音量アップ・ダウンボタン
● 音量ダウンボタン(▼)を押すと、音量が小さくなります。音量アップボタン(▲)を押すと、音量が大きくなります。
- ご注意：マイクアンドスピーカーを使つての音量調整は、電源を切ると解除されます。音量を固定したい場合は、音量調節ツマミで行ってください。

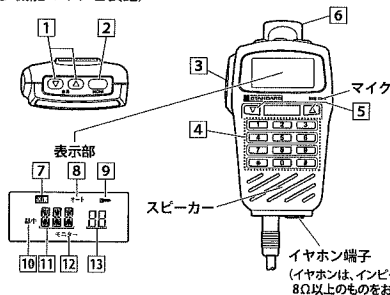
アドバイス
● マイク上部の3つのボタンは上記の音量とモニター以外の機能を設定して使用することも可能です。音量とモニター以外の機能を設定した場合は上記の説明とは異なる動作となります。詳しくは販売店にご確認ください。

- (2) モニターボタン
● 通話状況がモニターできます。
● このボタンを押しながら、電源を入れると、キーロックの設定/解除の切り替えが行えます。
● モニター時間は、1～10秒の間から選んで設定できます。または、モニターボタンを押す度に、モニター・オン/オフを切り替えるトグル動作が設定できます。設定に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所・サービスセンターにお問い合わせください。
- (3) プレスボタン
● 押すと送信、離すと受信状態となります。
- (4) スピーカー
● 受信状態の時に音がでます。
基地局用電源 BS24 を御使用の際は、BS24 のスピーカーも使用できます。
- (5) マイク
● 送信時は、この面に向かって話します。
- (6) 話中(緑) / 送信(赤)表示
● 他局が通話中の時、あるいはスケルチツマミの調整がされていない時、緑色に点灯します。
● 送信状態になった時、赤色に点灯します。
- (7) マイクハンガー
● マイクアンドスピーカーをマイクフックに掛けるための金具です。

7

多機能マイクアンドスピーカー (CMP888)

(本文中、多機能マイクと表記)



- ① 音量アップ・ダウンボタン
● 音量ダウンボタン(▼)を押すと、音量が小さくなります。音量アップボタン(▲)を押すと、音量が大きくなります。
● マイクアンドスピーカーを使つての音量調整は、電源を切ると解除されます。音量を固定したい場合は、音量調節ツマミで行ってください。
- ② モニターボタン
● このボタンを押すと、通話状況がモニターできます。
● このボタンを押しながら、電源を入れると、キーロックの設定/解除の切り替えを行います。
- ③ プレスボタン(PTTスイッチ)
● このボタンを押すと送信、離すと受信状態となります。
- ④ 数字ボタン
● このボタンを押して、個別通話機能またはページング機能を使用します。
0～9：個別呼出しコードまたはページングダイレクト入力時に使います。詳しくは販売店または(株)スタンダードの営業所またはサービスセンターにお問い合わせください。
- ⑤ チャンネルアップ・ダウンボタン
● 複数チャンネル設定時に、このボタンを押すと、チャンネルが変更されます。
- ⑥ マイクハンガー
● マイクアンドスピーカーをマイクフックに掛けるための金具です。
- ⑦ 送信表示
● 無線機が、送信状態のときに表示されます。

- ⑧ オート表示
● 無線機のスケルチ設定を、オート設定にしたときに表示されます。
- ⑨ ロック表示
● 本体及びマイクのボタンがロック状態のときに表示されます。
- ⑩ 話中表示
● 他局が通話中のとき、またはスケルチツマミの調整がされていない時に表示されます。
- ⑪ モード表示Ⅰ
● ページングコードまたはチャンネルが表示されます。
- ⑫ モニター表示
● モニターボタンが押されたときに表示されます。
● セレコールオールモニター機能が設定されているときに表示されます。
- ⑬ モード表示Ⅱ
● モード表示Ⅰにチャンネルが表示されているときに、「CH」が表示されます。
● モード表示Ⅱにページングコードが表示されているときに、「PG」が表示されます。

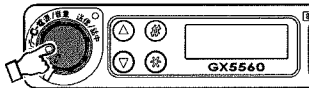
8

9

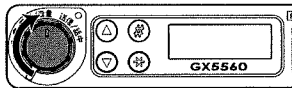
4. 基本操作方法

起動と待受及び受信

- 1** 電源スイッチを押すと電源が入ります。
表示部が橙色に点灯します。



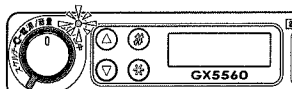
- 2** 音量調節ツマミを半分くらい回します。



- 3** マニュアルスケルチを設定している場合

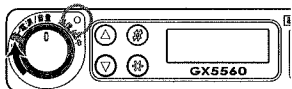
マニュアルスケルチの場合、受信したい信号レベルを手動で調整できます。

- 1) スケルチツマミを左に回し切りします。このとき話中表示(緑色)が点灯します。



- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチ及びデジタルスケルチを使用しない場合は、スピーカーより「ザー」という雑音が聞こえてきます。
- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用する場合は、次のようになります。

- 2) スケルチツマミを徐々に、右に回していきます。話中表示(緑色)が消えた位置で止めてください。なお、必要以上に右に回すと微弱な電波を受信できなくなります。



- 4** オートスケルチを設定している場合

オートスケルチが設定されている場合は、表示部に「A」が表示されます。

オートスケルチの場合は、設定された信号レベル以上の信号を自動で受信します。

ボタンを押しながら、電源を入れる度にオートスケルチとマニュアルスケルチの設定は切り替わります。

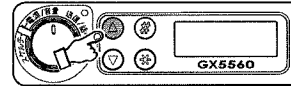
- 5** 手順3または4が終わった状態で信号が入ると話中表示(緑色)が点灯します。

- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチ及びデジタルスケルチを使用しない場合は、スピーカーより音声が入ってきます。
- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用する場合は、次のようになります。連続トーンスケルチの場合、自局のトーン周波数と同一トーン周波数の局の音声が入ってきます。デジタルコードスケルチの場合、自局のDCSコードと同一DCSコードの局の音声が入ってきます。デジタルスケルチの場合、同一設定のグループの局の音声が入ってきます。

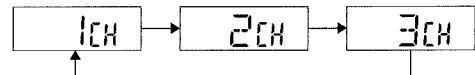
- 6** チャンネルの変更

- チャンネルの変更複数のチャンネルが設定されている場合、チャンネルの変更が行えます。

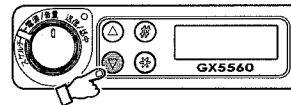
- 1) チャンネルアップボタン(▲)を押すと、「ピッ」という音が鳴りチャンネルが変わります。再度、チャンネルアップボタン(▲)を押すと、「ピッ」という音が鳴りチャンネルが変わります。



(例：3つのチャンネルが設定されている場合)



- 2) チャンネルダウンボタン(▼)を押した場合、アップボタンを押した時と逆にチャンネルが変わります。



アドバイス

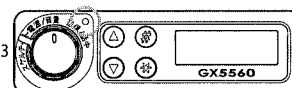
- 表示を見なくても、ボタンを押して、チャンネル1に戻った場合は、「ピッ」という音が鳴りお知らせします。
- チャンネル番号が異なると通話ができません。相手局の了解を得てからチャンネルの変更を行ってください。

10

11

送信

- 1** 送信するには必ず本体またはマイクの話中表示が消えていることを確かめて下さい。



- 2** マイクのプレスボタンを押します。



このとき本体及びマイクの送信表示(赤色)が点灯します。

- 3** マイクは、口もとから5cmぐらい離して、ゆっくり明瞭に話します。

- 4** 送話が終わったら直ちにプレスボタンを離します。

このとき本体及びマイクから送信表示が消え、待受状態になります。

閉局

送受信が終わり閉局する時は、その旨を相手局(基地局)に伝えてから電源スイッチを押します。電源を切ると表示部が消えます。

通話方法の例

通話方法は下記の交信例のように行って下さい。

呼出しするとき

「相手局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード2号 スタンダード2号 スタンダード2号]
「こちらは」	1回	[こちらは]
「自局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード1号]
「どうぞ」	1回	[どうぞ]

応答するとき

「相手局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード1号]
「こちらは」	1回	[こちらは]
「自局の呼出名称」	1回	[スタンダード2号]
「どうぞ」	1回	[どうぞ]

無線電話装置の設定や機能等に関しては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

12

13

5. 応用操作

スキャン機能(GX5560VFT/UFT)

(本体または多機能マイクでの操作です。)

チャンネルを自動的に変えて、受信します。

- 表示部にチャンネルが表示されているときにチャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を1秒以上押し続けます。

SCN

- 受信したチャンネルでスキャンが一時停止します。(3チャンネルで受信した場合)

SCN03

- チャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を押し、スキャンを停止します。(最後に受信したチャンネルが表示されます。)

3CH

アドバイス

- 各チャンネルごとに、スキャンメモリの ON/OFF が設定できます。スキャン機能を使うには、スキャン機能の設定を有効にしなければなりません。スキャン機能の設定およびスキャンメモリの設定については、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

ロック機能

(簡易または多機能マイクでの操作です。)

この機能を使うと、本体及びマイク(0~9、※、▲、▼)のボタンが使えなくなります。

- ボタンを押しながら、電源を入れます。
- マークが表示されます。(ロック機能が働いていることを表示しています。)

1CH

- この機能を解除するには、一度電源を切り、モニターボタンを押しながら、電源を入れます。

アドバイス

- この機能は、電源を切っても、記憶されています。

マイク感度切り替え機能

(本体のみの操作です。)

この機能を使うと、マイク感度を切り替えることができます。

- ※ボタンを押しながら、電源を入れます。(マイク感度が表示されます。)

MICL3

- チャンネルダウンボタン(▲)を押すと、マイク感度が下がります。再び、マイク感度を上げるには、チャンネルアップボタン(▼)を押します。(マイク感度は3段階の切り替えが可能です。)

MICL1

- 通常の操作に戻るには、設定したいマイク感度を表示した後で、一度電源を切り、再度電源を入れます。

アドバイス

- この機能は、電源を切っても、記憶されています。
- L1 がマイク感度最小です。
- 上記3段階以外のマイク感度に設定される場合は、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

エマージェンシー機能

この機能を使うと、次のいずれかの方式で、他の人に非常事態を知らせます。

- ボリウム最大でブザーを鳴らす。
- 同一グループ内で緊急コードの送受信を行う。
- ボリウム最大でブザーを鳴らしたうえ、同一グループ内で緊急コードの送受信を行う。

但しこの動作は予め設定しておく必要があります。

エマージェンシーコードの送信

- 表示部に EMG が表示されるまで、エマージェンシースイッチを押し続けます。

EMG

- エマージェンシースイッチを離します。

エマージェンシーコードの受信

- エマージェンシーコードを受信すると、発呼側のページングコードと EMG が交互に表示されます。

055pg

(例：発呼側のページングコードが 055 のとき)

EMG

- 通常の操作に戻るには、EMG が消えるまで、エマージェンシースイッチを押し続けるか、電源を入れ直します。

アドバイス

- エマージェンシーコードを受信すると、本機は受信および送信ができなくなります。また、エマージェンシーコードを送信しても、本機は受信および送信ができなくなります。通常の通信を行うためには、エマージェンシー機能を解除してください。
- 受信したエマージェンシーコードは、記憶されません。エマージェンシー機能を解除する前に、メモを取ることをお勧めします。
- エマージェンシースイッチ及び設定に関しては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

オートスケルチ/マニュアル

スケルチ切り替え機能

(本体のみの操作です。)

この機能を使うと、オートスケルチとマニュアルスケルチを切り替えることができます。

- ※ボタンを押しながら、電源を入れます。オートスケルチが設定されたときは、が表示されます。マニュアルスケルチが設定されたときは、が表示されません。

1CH

- オートスケルチとマニュアルスケルチを切り替えるには、一度電源を切り、再度※ボタンを押しながら電源を入れます。

アドバイス

- この機能は、電源を切っても、記憶されています。
- マニュアルスケルチの場合は、必ずスケルチを調整してください(4ページ参照)。スケルチが調整されないまま、ページングコード等を着信しにくくなります。

個別通話機能への切り替え

通常のチャンネル表示から個別通話機能チャンネルへの切り替え

- 表示部にチャンネルが表示されているときにチャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を押し、個別通話機能が設定されているチャンネルに合わせます。

3CH

2CH

2CH

(2チャンネルに個別通話機能が設定されている場合)

- ※ボタンまたは※ボタンを押して、チャンネルを決定します。(個別通話機能の表示になります。)

020SE

アドバイス

- 個別通話機能が設定されているチャンネルを表示して、10秒間何も操作が無ければ、そのチャンネルに決定されます。
- 個別通話機能が設定されているチャンネルを選んだ後に電源を切ると、次回電源を入れた時には、個別通話機能の表示になります。

個別通話機能チャンネルから通常のチャンネル表示への切り替え

- チャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を3秒以上押しします。

020SE

2CH

2CH

(チャンネルが点滅表示されます。)

- チャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を押し、他のチャンネルに合わせます。

3CH

アドバイス

- 10秒間何も操作が無ければ、個別通話機能の表示に戻ります。

個別通話機能

個別通話機能での送信

- 電源を入れます。(自局コードが3秒間表示され、その後相手局のコードが表示されます。)

010

020SE

- チャンネルアップボタン(▲)またはチャンネルダウンボタン(▼)を何度か押し、発呼したい相手局のコードに合わせます。

- マイクのプレスボタンを1回押して放します。
- 呼んだ相手が着信したことを示す「ピーピー」という音を確認します。相手が着信しないと「ポッポッ」という音になります。
- 相手が出来たら、マイクに向かって話してください。

個別通話機能での受信

- 呼ばれたことを示す「ピーピー、ピーピー」という音を確認します。(発呼元のコードが表示されます。)

010SE

- プレスボタンを押して、マイクに向かって話してください。

アドバイス

- 呼び出されたときに、応答できなかった場合は、不在着信表示になります。

010-1

- 呼出方式に応じて、受信時の表示は以下のようになります。

020SE

030OP

ALL AL

グループ呼出し

一斉呼出し

不在着信メモリー機能

他局からの個別呼出しに応答できなかった場合、不在着信機能が働き、自局を呼び出した相手局の個別番号を表示するとともに、不在着信の専用メモリーに記憶します。不在着信は5件までメモリーに記憶されます。メモリー一杯のときに新しい不在着信があると、古いものから消去されます。

- 不在着信があったことを示す相手局コードとメモリー番号が点滅していることを確認します。

010-1

- プレスボタンを押して、応答します。不在着信時の応答方法は予め以下の内の1つに設定されています。

- 不在着信の相手局コードで送信
- 予め設定してある相手局コードで送信
- 前回に送信した相手局コードで送信

- 記憶されている不在着信を確認するには、チャンネルアップボタン(▲)を押します。

010-1

123-2

チャンネルアップボタン(▲)を1回押すごとに、古い不在着信が表示されます。

- 表示されている不在着信を消す場合は、※ボタンを押してください。古い不在着信を消す場合は、チャンネルアップボタン(▲)を何回か押して、消したい不在着信を表示してから※ボタンを押してください。
- 設定されたもの表示に戻るには、※ボタンを押してください。

セレコールオールモニター機能

この機能を設定した局では、他の局同士が個別通話機能で行っている会話をモニターすることができ、例えば、基地局にこの機能を設定し、移動局同士が個別通話を行うと、移動局同士の会話を基地局がモニターできます。

- セレコールオールモニターの表示が点滅することを確認する。

010SE

セレコールオールモニターで受信すると、呼び出し音はなりません。

- 会話をモニターします。

ページング機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)

メモリーされているページングコードを使い、運用します。

- 表示部にチャンネルが表示されているときに、本体または多機能マイクの※ボタンを押します。(前回呼び出したページングコードが表示されます。呼び出したコードが無い場合は、「-」になります。)

1CH

55pg

(例：前回呼び出したページングコードが 55 のとき)

- ※ボタンを何度か押し、発呼したいページングコードにします。

56pg

(例：呼び出すページングコードが 56 のとき)

- プレスボタンを押します。(表示されているページングコードが発呼され、チャンネル表示に戻ります。)
- 呼んだ相手が着信すると、「ピーピー」という音が鳴ります。相手が着信しないと、「ポッポッ」という音が鳴ります。

アドバイス

- プレスボタンを押すまでに、ボタンを押すか、5秒間操作をしないとチャンネル表示に戻ります。
- GX5560VFT および GX5560UFT でのページングコードは、3桁表示になります。
- 簡易マイク(CMP5560)をご使用の際は、ページングコードを事前にメモリーしておいてください。簡易マイクを使っても、ページングコードを入力することができません。
- ページングコードのメモリー方法については、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所またはサービスセンターにお問い合わせください。

ダイレクトページングコード機能

(多機能マイクでの操作です。)

数字ボタンを操作して、ページングコードを設定し、相手局を呼び出します。

- 表示部にチャンネルが表示されているときに、多機能マイクの0~9のボタンを押してページングコードを入力します。

01pg

(例：呼び出すページングコードが1桁の時は、そのコードの前に0が付きます。)

12pg

(例：呼び出すページングコードが2桁の時は、)

23pg

(例：3桁以上入力したときは、最後の2桁のみが表示されます。)

- プレスボタンを押します。(入力したページングコードが発呼され、チャンネル表示に戻ります。)

- 呼んだ相手が着信すると、「ピーピー」という音が鳴ります。相手が着信しないと、「ポッポッ」という音が鳴ります。

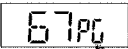
アドバイス

- プレスボタンを押すまでに、※ボタンを押すか、5秒間操作をしないとチャンネル表示に戻ります。また、※ボタンを押すとメモリー呼び出し機能に切り替わります。
- GX5560VFT および GX5560UFT でのページングコードは、3桁表示になります。

ページング着信表示機能

ページングにて呼ばれたときに、発呼元のページングコードを表示します。また、着信したことを発呼元に知らせるために自動的に、ページングを発呼します。プレスボタンを押すことで着信表示機能が解除され、発呼元と通話することができます。

- 1) チャンネルが表示されています。
- 2) ページングコードを着信すると、発呼元のページングコードを表示し、「ビップビップビップ」と鳴ります。
(相手に着信したことを知らせるために、自動的に数秒間ページングコードを発呼します。)



- 3) プレスボタンを押して通話すると、チャンネル表示に戻ります。)

アドバイス

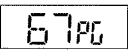
- プレスボタンを押すまでに、* または # ボタンを押しても、チャンネル表示に戻ります。

ラストページングコード呼び出し機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)

最後に発呼したページングコードまたは着信したページングコードを使って、発呼できます。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに * ボタンを押します。
(最後に発呼したページングコードまたは着信したページングコードのどちらか新しい方が表示されます。)



- 2) プレスボタンを押します。
(表示されているページングコードが発呼されます。)

アドバイス

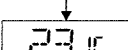
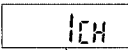
- プレスボタンを押すまでに、* ボタンを押すか、5 秒間操作をしないとチャンネル表示に戻ります。また、# ボタンを押すとメモリー呼び出し機能に切り替わります。
- 電源を切ると、ラストページングコードの内容は消去されます。

自局ページングコード表示機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)

この機能を使うと、自局のページングコードが表示されます。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに、* ボタンを 2 秒以上押し続けます。



- 2) チャンネルの表示に戻るには、* ボタンを押します。または、5 秒間何も操作しないと、チャンネルの表示に戻ります。

(例：自局ページングコードが 23 のとき)

アドバイス

- ページング機能が設定されていないチャンネルでは、この機能は無効です。

6. ご使用上の注意

- ① 通話を開始するとき。
アンテナを取り付けずに送信しないで下さい。
- ② 送信する前に必ず信号のないことを話中表示(緑色消灯)で確かめて下さい。
- ③ 相手局が話し終わってから送信して下さい。相手局が送信している間に、こちらから送信しても相手局では受信できません。
- ④ 指定のマイク以外は絶対に使用しないで下さい。
- ⑤ 通信は免許状に記載されている目的、通信の相手方及び通話事項の範囲内で行ってください。
- ⑥ 通話はできる限り簡潔に行ってください。1 回の通話時間は 5 分を超えないでください。
- ⑦ 長時間の使用等により、本体が高温となりますので、手足など直接肌に触れないようにして下さい。
- ⑧ 相手局とチャンネル番号が異なると通話できません。必ずチャンネル番号を合わせてご使用ください。また、チャンネルを変更する場合は、相手局の了解を得てからチャンネルの変更を行ってください。

7. 取り付け場所と取り付け方法

本装置の据え付け場所を決定する際には、次の点に注意してください。

- ① ストープ、スチーム、ヒーター等の発熱体の近くや日光の直射を受ける場所は避けてください。
- ② 極度な振動・衝撃を受けやすい場所は避けてください。
- ③ アンテナ同軸ケーブル、その他のケーブルの配線が容易な場所を選んでください。
- ④ 操作のしやすい場所を選んでください。

特に自動車に取り付ける場合には、ダッシュボードの下など運転の邪魔にならない場所を選んでください。

取り付け方法

● 自動車に取り付ける場合

- ① 付属している取り付け金具を用意します。
- ② ダッシュボードに金具の位置に合わせ、穴を開けネジ止めします。

ご注意：走行中の振動に充分耐えるようしっかりと固定してください。

- ③ アンテナ同軸ケーブル、電源ケーブル等を本体に接続します。

ご注意：電源ケーブルは赤線を極に、黒線を極(アース)に接続してください。

- ④ 本体を取り付け金具に取り付けます。

● 机、台の上に取り付ける場合

- ① 付属している取り付け金具を用意します。
- ② 机、台に金具の位置に合わせ、ネジ止めします。
- ③ アンテナ同軸ケーブル、電源ケーブル等を本体に接続します。

ご注意：電源ケーブルは赤線を極に、黒線を極(アース)に接続してください。

- ④ 本体を取り付け金具に取り付けます。

8. 機器の保守方法

日常の保守点検

機器は保守の適否により寿命が非常に左右されるものです。常に最良の動作条件に保つためには定期的に点検を行ってください。また、その結果を記録しておくことをおすすめします。これにより、故障などを早期に発見したり、未然に防ぐことができます。従って日課として下表のような点検をすることをおすすめします。

順序	点検箇所	点検内容
1	入力電圧の点検	バッテリーと電源ケーブルとの接続状態 ヒューズソケットの接触状態
2	空中線(アンテナ)の点検	空中線の取付状態 空中線接線の接触状態
3	電源スイッチの点検	「ON」にして速やかに起動しますか? 表示灯は点灯しますか?
4	「スケルチ」ツマミの点検 (マニュアルスケルチの場合)	ツマミを右回転(時計方向)させた時、話中表示 (緑色)が消灯しますか?
5	「音量」ツマミの点検	ツマミを回転させた時、滑らかに受信音や雑音を 増減しますか?
6	スピーカー音による受信性能 の点検	いつもより雑音量が極端に増減していませんか? 「音量」「スケルチ」両ツマミは、定位置を決めて おくとう便利です。
7	プレスボタンの点検	プレスボタンを押して、送信状態になりますか?
8	他局との通話による送受信状態 の点検	いつもの通り通話ができますか? 相手局を決めておく(例えば基地局)便利です。
	連続トーンスケルチ、デジタル コードスケルチまたは、デ ジタルスケルチを装備した時 の点検	連続トーンスケルチ時に、同一トーン周波数の 局と平常どおり通話できますか? デジタルコードスケルチ時に、同一 DCS コード の局と平常どおり通話できますか? デジタルスケルチ時に、同一設定のグループの 局と平常どおり通話できますか?

9. 故障とお考えになる前に

- ① 電源スイッチを入れても、表示部が点灯しない。
 - ヒューズ切れ。
 - 電源ラインの接触不良。
 - コンセント、または電源コード接続部の抜け。
- ② 受信音が聞こえない。
 - 音量ボリュームを左に回しきっている。
 - スケルチツマミを右に回しきっている。
 - マイクをフックに掛けたままの場合、トーンスケルチまたはデジタルコードスケルチが内蔵であると音が出ない。(マイクをフックより外して見る。)
- ③ ノイズは聞こえるが受信音が聞こえない
 - 空中線(アンテナ)の抜け。
- ④ 受信音が小さい。
 - 音量ボリュームが左側に回しきってある。
- ⑤ スケルチツマミを回しても、ノイズ音がなくなる。
 - 他局の電波が入感しているとき。
- ⑥ 送信しない。
 - 6-1. 送信表示ランプが点灯する。
 - アンテナ系統の接続はずれ、接触不良。
 - 6-2. 送信表示ランプが点灯しない。
 - マイクコネクターのはずれ。

22

10. 定格

一般	
電波型式	F3E、F2D
通信方式	プレストーク式
送信部	
送信出力	1～5W 1～10W (GX5560UFT/GX5560VFT) (注：High/Low の 2 ポジション設定可能) 可変容量ダイオードによる直接周波数変調 ± 3ppm 以内(UHF)、± 10ppm 以内(VHF) 8.5kHz 以下(UHF)、16kHz 以下(VHF)
変調方式	
周波数偏差	± 3ppm 以内(UHF)、± 10ppm 以内(VHF)
占有帯域幅	8.5kHz 以下(UHF)、16kHz 以下(VHF)
受信部	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	45MHz、455kHz
感 度	-6dB μ 以下(12dB SINAD)
受信出力	10%歪率にて 1.6W 以上 最大出力 2.0W 以上
スプリアス	60dB 以上
本 体	
寸 法	高さ：27mm 幅：115mm 奥行：145mm 但し突出部を除く
質 量	約 580g
電源部	
電源電圧	13.8V/26.4V DC $\pm$ 10%
接地方式	マイナス接地
消費電流	送信時：最大 3.0A 最大 3.5A (GX5560UFT/GX5560VFT)

23

販売元：株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号

製造元：株式会社 **CSR**

〒228-0803 神奈川県相模原市相模大野5丁目33番4号

お問い合わせは、
最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンターで承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

All Rights Reserved

Printed in Japan
2008/11

00M68AC851112